



園芸作物栽培に関する

これからの対策と Q&A

今秋の気象概況

今年7月の世界平均気温は統計開始以降最も高くなったとの報道がありました。8月も相当な温度になっており、赤道域の海水温がかなり高くなっています。この影響で積乱雲が発

◎秋野菜の管理

本年は台風が次々と発生し秋雨前線を刺激しているため雨量が多くなっています。よって圃場の排水対策はしっかりとっておく必要があります。

◎害虫の防除

これまでとも言及しておりますが、今年は全般的に害虫の発生が多くなっています。特に秋に発生する害虫は成長が早いので早めの防除に心がけましょう。



ハインマダラノメイガ食害
ダイコンの生長点がなくなっている。

現在のところ気温が高く推移していることとアオムシ、コトウムシ、アブラムシ、コナジラミ等の発生が多くなっています。さらにネキリムシやキスジノミハムシなどの土壌中に潜む害虫も多くなっていますので、圃場の見回りを怠りなくして早期防除に心がけてください。秋雨の頃になるとナメクジも出てきます。秋のナメクジは大型の個体が多いので食害も馬鹿になりませぬ。

先月号で、秋野菜の播種・定植時の同時処理剤の施用について記しておきましたが、これら薬剤の効果は3週間〜1ヶ月程度ですので、すでに効果が切れ始めている圃場もあると思います。これからは薬液散布で対処することになります。特に結球性野菜では害虫に食い込まれると防除困難となりますので早めに対処してください。(防除農薬については先月号を参照してください。)

◎病害の防除

今秋は台風の襲来も多くなっており、強風や大雨時には茎や根に傷みが

出やすくなりますので天候が回復したら殺菌剤散布を徹底してください。特に窒素過多・過繁茂となっている圃場では発生が懸念されます。また、大根や白菜、キャベツなどの黄花した葉は病原菌やナメクジ、害虫の巣になりやすいので取り去って通風採光を図ってください。

◎農薬散布にあたって

- ① 農薬の使い方によっては効果が差が出ます。農薬散布に際しての注意点を記します。
- ② 散布液を吸い込んだり、肌に付着したりしないよう防除衣、防護手袋、防護マスク、保護メガネを着用しましょう。
- ③ 希釈濃度、収穫までの日数制限、散布回数を順守しましょう。
- ④ 散布にあたっては風の向きなどを調べて自身が農薬を浴びないように、また隣接の畑に飛散しないよう注意しましょう。
- ⑤ 散布効果を上げるため、混み入った葉や老化した葉は事前に摘除しておきましょう。
- ⑥ 殆どの害虫・病害は先ず葉裏から発生しますので薬剤が葉裏にあたるように散布しましょう。
- ⑦ 薬液量が不足するとかけ残しが出て効果が低

達しやすくなっております。晩秋には海水温は落ち着くとの見通しですが9〜10月は平年より気温はかなり高く推移すると見込まれています。



大門 優
園芸アドバイザー

お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499

バックナンバーはJAたんなんホームページ
<http://ja.tannan.com/> 広報誌をご覧ください。

- ⑥ 減します。葉が充分濡れるよう散布しましょう。
- ⑦ ノズルが不良ですと細かい霧状にならないので散布前にノズルの点検をしておきましょう。
- ⑧ 薬剤を混用する場合は殺虫剤と殺菌剤の2種混用までとってください。3種類以上の混用や殺虫剤同士の混用は避けましょう。また、薬剤はある程度希釈したのちに混ぜ合わせましょう。

◎間引きと追肥

秋野菜の多くは播種・定植からほぼ1ヶ月となり、1回目の追肥はほぼ終わっている頃かと思えます。2回目の追肥時期は結球性野菜では結球始めが目安となります。ダイコンなど根菜類は本葉が6〜7枚になった頃、一本立ちになるよう間引きした後に行います。間引き際に残すべき株は片方の手で押さえながら作業をしましょう。追肥量は1平方メートルあたり化成肥料5〜6gくらいですので指4本で軽くつまむ程度となります。

◎雑草の防除

9月は地温も高く、秋雨などの後は雑草が急速に伸びてきます。株間は早目の土寄せ、通路はバスタ液剤やプリグロックスなど茎葉処理を散布して抑えておきましょう。(※下段の表を参照)



雑草のはびこり

◎越冬野菜の播種・定植

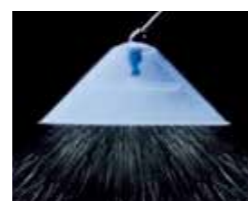
- ① まだ夏の名残が感じられますが10月は早へも越冬野菜の準備が始まります。今月の作業としては①イチゴの定植(5日前後)・ウリウリ部分(茎部が1cm以上のしっかりと苗を植える)。
- ② 越冬キャベツの播種(品種により5〜20日)・金系SO1・SE、北ひかり、秋時極早生などがある。
- ③ ニンニクの定植(10〜15日)・8〜10g程度のリン片を使用、2〜3年毎に種子を買い入れ更新する。
- ④ 4年ニンニクの播種(10〜15日)・タネの一部見えるように播種する。(窒息による発芽不良回避)
- ⑤ タマネギ苗の管理(月間)・雨が当たると病気が出やすいのでトンネルなど雨除けをする。

◆園芸質問箱より

☆昨年ダイコンやハクサイの柔らかい葉に小さな甲虫がたかって食い荒らしているのが防除はどうするか?との問い合わせが多くありました。正体はダイコンハムシで近年多発しております。特に近くに雑草が繁茂していると被害が出やすいようです。この虫に対する農薬登録は少ないですがモスピラン水溶液、コテツフロアブルなどを散布します。



ダイコンハムシの成虫と幼虫。ともに葉を食い荒らす。



飛散防止カバー



除草剤用散布ノズル

☆主な除草剤と使用上の留意点

薬剤名	ラウンドアップマックスロード。バスタ液剤。ザクサ液剤。ピラサート液剤。プリグロックスなど
散布方法	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね100倍希釈液で使用する。 ・草丈は概ね30cm以下で使用する。(大きても相当の効果はあるが薬量が増してくる。すべての雑草に薬液がかかりきれない。種子が出来てしまつて雑草が減らないなど。) ・散布作業は早朝か夕方、若しくは曇天日が効果的である。 ・農作物への飛散防止のため飛散防止カバーを使うか、除草剤専用ノズルを使用する。
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・非選択性の茎葉処理剤で広葉雑草、イネ科雑草共に効果がある。 ・散布後3〜7日で効果が見られ始める。 ・枯殺までの期間はかなり差があるが重複散布はしない。 ・プリグロックス以外は根まで枯らす効果があり抑草期間が比較的長い。 ・土壌に落ちた薬液は速やかに分解されるので後作への影響がない。
使用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・希釈水は水道水など濁りの無い水を使用する。 ・散布前に草を刈り込まない。(効果が落ちる。) ・降雨が予想される数時間前までには散布を終える。 ・散布にあたっては防護手袋、防護マスク、保護メガネを着用すること。 ・ラウンドアップはスギナ・ツクサに効果がやや劣るので2・4Dを加用するとよい。 ・除草剤専用の展着剤(クサリノー等)を加用すると効果が上がる。

病害防除剤	対象病害						倍率	対象作物			
	軟腐病	黒斑病	斑点細菌病	べと病	黒斑細菌病	白斑病		黒腐病	大根	白菜	キャベツ
Zボルドー	○		○	○	○		500	○無	○無	○無	○無
スターナ水和剤	○				○		1000	○21	○7	○7	○14
ダコニール1000		○				○	1000	○45	○7	○14	○21
カスミンボルドー	○				○		1000	○14	—	○7	○21
アミスター-207フロアブル		○		○		○	2000	○14	○7	○7	○3

対象作物欄の数字は収穫前日数を表す。(○無は規制なし)